

●昭和52年 8月20日印刷

●昭和52年10月1日発行

●編集・発行者 竹島紀元

●編集スタッフ

塚本雅啓／松尾定行／宮原正和
日比 彰／沖 勝則

●アートディレクト 岡田徹也

●発行所

(株)鉄道ジャーナル社

〒102 東京都千代田区飯田橋4-8-6
日産ビル 電話03(264)1891・1892
振替口座 東京 9-82820

●印刷所 凸版印刷株式会社



華やかな特急の影にかくれて地味な存在となりつつある急行列車ではあるが、線区や季節によってはけっこう利用も多い。とくに昨年の運賃・料金大幅値上げ以後は少なくとも中近距離客の急行へのカムバック現象が顕著である。これは利用者が、特急と急行の格差を金銭的に計算した結果と考えられるが、このさい国鉄も利用者が‘急行’というものを改めて考えなおしてみる必要があろう。本誌では今回、国鉄の急行列車について種々のデータを集め、多くの急行に試乗するなど、多角的にその実態を追求してみた。結論をひとことではいえば、特急に比べて急行の育成が消極的すぎる——ということである。時間帯も本数も十分でなく、車両はじめすべての面で特急より格段に劣っている。‘エル特急’に代表されるように、特急列車は群として意欲的に育てられた結果、今日の隆盛をみた。‘急行’にも同じ積極的な方策をとり入れ、大衆に密着した鉄道の主力として発展させるべきである。現代鉄道の主役としての‘特急’を否定するつもりはない。‘急行’をたんに特急の補完列車としてではなく、特急と並ぶ国鉄の目玉商品として育ててほしいのである。

特大号 特価600円
〒60円

1977-10 もくじ

- 7 レールウェイ・レビュー 汽車旅が楽しければ
- 8 ニュース・ファイル(国鉄・私鉄・海外鉄道の動き)

●特集‘急行列車’再発見(第1部)

★特別企画

15 急行列車と日本縦断(前編)指宿→新宿

竹島紀元/山田 亮
沖 勝則/逸見慶子

52 急行列車900本の素描

編集部

65 急行列車の運転線区

編集部

69 国鉄の急行列車

須田 寛

85 <あしずり>土讃本線をゆく

真船直樹

●‘名列車’誌上リバイバル②③

91 奥羽路の半世紀を駆ける急行<津軽>

種村直樹

98 ヨーロッパの新しい“急行用”客車

野村 董

107 ディーゼル機関車とわたし④

高田隆雄

115 装本芸術と汽車④

佐々木桔梗

127 レールファン・ノートから②⑥ 鉄道のスクラップブック

本島三良

●レールウェイ・トピックス

139 筑豊電鉄に3両連接2000形が登場

安藤良之助

140 東京モノレールに新型車両

大谷直彦

141 梅小路機関車館の100万人突破記念行事

山村定雄

142 トップ・アングル

144 車両とともに30年⑨

田邊幸夫

ブルー・トレイン

◆ワイドレンズ(128)◆魚眼/ズームレンズ(130)◆タブレット(131)◆読者論壇(133)◆Q & A/鉄道友の会だより(135)◆車両基地/伝言板(136)◆R J クイズ/鉄道記事ざっくばらん(137)◆次号のお知らせ/こちらジャーナル編集室/乗務員室(138)

表紙写真/さっそう! 急行<犬吠> (総武本線・船橋で)

’77-7 カメラ・永崎祐之